

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学院の設置							
フリガナ設置者	コリツダガクカクジシヨウ ニミコリツダガク 公立大学法人 新見公立大学							
フリガナ大学の名称	ニミコリツダガクダガクケン 新見公立大学大学院 (Graduate School of Niimi College)							
大学本部の位置	岡山県新見市西方1263番地2							
大学の目的	<p>学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、学術と教育の振興を図り、保健・医療・福祉の増進と地域医療の発展に寄与するとともに、学術研究を創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>保健・医療・福祉分野における様々な課題に主体的に取り組み、地域医療に貢献するとともに、総合的な調整能力とリーダーシップを有する看護専門職者、看護研究者・教育者の育成を目指す。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	看護学研究科 〔Graduate School of Nursing〕 看護学専攻 〔Course of Nursing〕	年	人	年次人	人	修士（看護学）	年月 第 年次 平成26年4月 第1年次	岡山県新見市 西方1263番地2
	計	5	—	—	10			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
看護学研究科 看護学専攻		17科目	5科目	0科目	22科目	30単位		

【基礎となる学部】看護学部看護学科
14条特例の実施

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新設	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)		9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	5 (5)
	計		9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	5 (5)
既設	該当なし		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
合計			9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	5 (5)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		1 (1)		13 (13)		14 (14)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		2 (2)		3 (3)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		2 (2)		15 (15)		17 (17)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	0 m ²	17,636 m ²		0 m ²		17,636 m ²		
	運動場用地	0 m ²	5,031 m ²		0 m ²		5,031 m ²		
	小計	0 m ²	22,667 m ²		0 m ²		22,667 m ²		
	その他	0 m ²	4,013 m ²		0 m ²		4,013 m ²		
合計		0 m ²	26,680 m ²		0 m ²		26,680 m ²		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
		1,670.45 m ² (1,670.45 m ²)	7,243.88 m ² (7,243.88 m ²)		1,177.95 m ² (1,177.95 m ²)		10,092.28 m ² (10,092.28 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	11室	31室	9室		1室 (補助職員0人)		0室 (補助職員0人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		看護学研究科			15室				

新見公立短期大学と共用

新見公立短期大学と共用

大学全体

申請学部全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 での共用 分図書 30,971冊 〔1,304冊〕 学術雑誌 19冊 〔1冊〕	
	看護学研究科	22,184 [1,561] (21,344 [1,502])	35 [5] (32 [2])	3 [3] (2 [2])	750 (736)	420 (410)	5 (5)		
	計	22,184 [1,561] (21,344 [1,502])	35 [5] (32 [2])	3 [3] (2 [2])	750 (736)	420 (410)	5 (5)		
図書館	面積 1,584.95 m ²		閲覧座席数 161		収納可能冊数 100,000			大学全体	
体育館	面積 3,617.97 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 —						
経費の見積り 及び維持方法 の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		363千円	363千円	—	—	—	—
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	—	—	—	—
		図書購入費	980千円	980千円	980千円	—	—	—	—
	設備購入費	2,721千円	2,800千円	2,800千円	—	—	—	—	
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	724千円(区域内) 818千円(区域外)	536千円	—	—	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			大学運営費交付金、資産運用収入、雑収入 等						
既設大学等の概要	大学の名称	新見公立大学							
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
	看護学部 看護学科	年	人	年次 人	人		倍		岡山県新見市 西方1263番地2
		4	60	—	240	学士(看護学)	1.05	平成22年度	
	大学の名称	新見公立短期大学							
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
幼児教育学科	年	人	年次 人	人	短期大学士 (教育学)	1.08	昭和55年度	岡山県新見市 西方1263番地2	
地域福祉学科	2	50	—	100	短期大学士 (介護福祉学)	1.08	平成8年度	岡山県新見市 西方1263番地2	
附属施設の概要	該当なし								

公立大学法人新見公立大学 大学院設置認可等に関わる組織の移行表

平成25年度	入学 定員	収容 定員	平成26年度	入学 定員	収容 定員	変更の事由																								
<table border="1"> <tr><td>新見公立大学</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>看護学部看護学科</td><td>60</td><td>240</td></tr> <tr><td>計</td><td>60</td><td>240</td></tr> </table>			新見公立大学			看護学部看護学科	60	240	計	60	240	⇒	<table border="1"> <tr><td>新見公立大学</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>看護学部看護学科</td><td>60</td><td>240</td></tr> <tr><td>計</td><td>60</td><td>240</td></tr> </table>			新見公立大学			看護学部看護学科	60	240	計	60	240						
新見公立大学																														
看護学部看護学科	60	240																												
計	60	240																												
新見公立大学																														
看護学部看護学科	60	240																												
計	60	240																												
<table border="1"> <tr><td>新見公立短期大学</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>幼児教育学科</td><td>50</td><td>100</td></tr> <tr><td>地域福祉学科</td><td>50</td><td>100</td></tr> <tr><td>計</td><td>100</td><td>200</td></tr> </table>			新見公立短期大学			幼児教育学科	50	100	地域福祉学科	50	100	計	100	200	<table border="1"> <tr><td>新見公立大学大学院</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>看護学研究科 看護学専攻 (M)</td><td><u>5</u></td><td><u>10</u></td></tr> <tr><td>計</td><td><u>5</u></td><td><u>10</u></td></tr> </table>			新見公立大学大学院			看護学研究科 看護学専攻 (M)	<u>5</u>	<u>10</u>	計	<u>5</u>	<u>10</u>	大学院新設 (認可申請)			
新見公立短期大学																														
幼児教育学科	50	100																												
地域福祉学科	50	100																												
計	100	200																												
新見公立大学大学院																														
看護学研究科 看護学専攻 (M)	<u>5</u>	<u>10</u>																												
計	<u>5</u>	<u>10</u>																												
<table border="1"> <tr><td>新見公立短期大学</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>幼児教育学科</td><td>50</td><td>100</td></tr> <tr><td>地域福祉学科</td><td>50</td><td>100</td></tr> <tr><td>計</td><td>100</td><td>200</td></tr> </table>			新見公立短期大学			幼児教育学科	50	100	地域福祉学科	50	100	計	100	200	<table border="1"> <tr><td>新見公立短期大学</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>幼児教育学科</td><td>50</td><td>100</td></tr> <tr><td>地域福祉学科</td><td>50</td><td>100</td></tr> <tr><td>計</td><td>100</td><td>200</td></tr> </table>			新見公立短期大学			幼児教育学科	50	100	地域福祉学科	50	100	計	100	200	
新見公立短期大学																														
幼児教育学科	50	100																												
地域福祉学科	50	100																												
計	100	200																												
新見公立短期大学																														
幼児教育学科	50	100																												
地域福祉学科	50	100																												
計	100	200																												

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護研究特論	1前	2			○			2						オムニバス	
	看護学の動向と展望	1後		2			○		7						※講義	
	統計学特論	1前		2		○					1					
	人間関係特論	1前		2		○									兼2 オムニバス 集中 ※演習	
	看護実践と倫理	1後		2		○			1							
	看護教育特論	1後		2		○			2						兼1 オムニバス	
	看護管理特論	1前		2		○									兼1 集中	
	地域医療支援特論	1後	2			○			1	1					兼1 オムニバス ※演習	
小計 (8科目)	—	—	4	12	0	—	—	—	7	1	1	0	0	兼5	—	
専門科目	地域生活支援看護学領域	健康支援活動特論	1前		2		○		1							
	高齢者ケア特論	1前		2		○		2							オムニバス	
	高齢者コミュニケーション特論	1後		2		○		1								
	在宅看護支援特論	1前		2		○			1							
	地域ケアマネジメント特論	1前		2		○				1						
	小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—	—	3	2	0	0	0	0	兼0	—
専門科目	療養支援看護学領域	療養支援看護学特論	1前		2		○		2	1					オムニバス	
	看護技術特論	1後		2		○		1								
	成人看護支援特論	1前		2		○		1	1						オムニバス	
	育成看護支援特論	1前		2		○		1								
	精神看護ケア特論	1前		2		○		1								
	小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—	—	5	2	0	0	0	0	兼0	—
演習・研究	地域生活支援看護学課題演習	1後		2			○		3	2						
	療養支援看護学課題演習	1後		2			○		4	1	2					
	特別研究 I	1通	4				○		9	3	3					
	特別研究 II	2通	6				○		9	3	3					
	小計 (4科目)	—	—	10	4	0	—	—	9	3	3	0	0	0	兼0	—
合計 (22科目)		—	—	14	36	0	—	—	9	3	3	0	0	0	兼5	—
学位又は称号		修士 (看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
看護学研究科の修了要件は、共通科目から8単位以上(必修4単位を含む)、専門科目の2領域のうちから各自の研究課題に関連した領域の科目から選択し6単位、2領域の選択外の科目から4単位以上、各自の研究課題に関連した地域生活支援看護学課題演習、療養支援看護学課題演習のいずれかを選択し2単位、特別研究 I 4単位及び特別研究 II 6単位の合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																	
(看護学部看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基 礎 分 野	人間と文化	基礎ゼミナール	1前	1							13	3	6	1		兼1	
		哲学	1前		2			○			1						兼1
		文学	1前		2			○									兼1
		音楽	1前		2			○									兼1
		美術	1前		2			○									兼1
	人間と社会	日本国憲法	1前	2				○									兼1
		社会学	1前		2			○									兼2 オムニバス
		心理学概論	1前		2			○									兼1
	自然と情報	教育学	1後		2			○									兼1
		自然科学Ⅰ	1前	2				○			1						兼2 オムニバス
人間と言語	自然科学Ⅱ	1後		2			○			1						兼2	
	生活化学	1前		2			○									兼1	
	情報処理	1後	1					○								兼2	
	国語表現法	1後		2			○			1						兼1	
	英語Ⅰ	1前	1				○			1						兼1	
	英語Ⅱ	1後	1				○			1						兼1	
	英会話Ⅰ	2前	1				○									兼1	
スポーツ	英会話Ⅱ	2後	1				○									兼1	
	英語論文講読入門	3前		1				○		2						兼1	
	国際交流活動	1~4通		1				○		1		1				兼1	
小計 (23科目)	保健師教育課程	—	12	23	0					13	3	6	1	0	兼14	—	
	—	—	12	23	0												
	—	—	12	23	0												
専 門 基 礎 分 野	人間と社会と医療	医療概論	1後	1			○			1						兼1	
		生命倫理	2後	2			○			1						兼1	
		保健医療統計学Ⅰ (基礎)	2後	1			○					1				兼1	
		保健医療統計学Ⅱ (応用)	3前	1				○				1				兼1	
		社会福祉	1後		1			○								兼1	
		保健医療福祉法制	2後	1				○								兼1	
		保健医療福祉行政論	3前	2				○								兼4 オムニバス	
		人間関係論	2前		1			○								兼1	
		カウンセリング	3前		1			○								兼1	
		国際保健論	3前	1				○								兼1	
ボランティア論	3前		1			○								兼1			
地域ボランティア活動	1~4通		1				○								兼1		
生命のしくみ	人体構造学	1前	2				○			1						兼1	
	人体機能学	1前	2				○									兼1	
	生命活動と代謝	1後	1				○									兼2	
	微生物学	1後	2				○			1						兼1	
	基礎病理学Ⅰ (総論)	2前	1				○									兼1	
	基礎病理学Ⅱ (各論)	2後	1				○									兼1	
	薬と健康	2前	1				○									兼3 オムニバス	
	医療情報	2前	1				○			1		1				兼2 オムニバス	
	健康障害と医療	病態治療学A (外科各論・消化器)	1後	1				○									兼3 オムニバス
		病態治療学B (脳・神経・運動器・放射線医学)	2前	1				○									兼4 オムニバス
病態治療学C (呼吸器・血液・循環器)		2前	1				○									兼4 オムニバス	
病態治療学D (腎・泌尿器・内分泌・代謝)		2後	1				○									兼2 オムニバス	
女性の健康と疾患		2前	1				○									兼1	
小児の健康と疾患		2前	1				○									兼1	
心の健康と疾患		2後	1				○									兼1	
薬と疾病		2後	1				○			1						兼3 オムニバス	
臨床栄養学		1後	1				○									兼3 オムニバス	
疫学		3前	2				○					1				兼2 オムニバス 特講義	
疫学調査・疫学演習	疫学調査・疫学演習	3後	◎1	1				○				1				兼1	
	地域リハビリテーション論	3前		1				○								兼1	
	運動指導論	3前		1				○								兼1	
	—	—	31	8	0					3	0	1	0	0	兼37	—	
小計 (33科目)	保健師教育課程	—	32	7	0												
	—	—	32	7	0												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
基礎看護学	基礎看護学概論	1前	2			○			1									
	健康生活援助技術論	1前	2						2								※講義	
	療養生活援助技術論	1後	2					○	2				1	1				
	健康障害援助技術論	2後	2					○	2				1	1				
	看護過程論	2前	2					○	2				1	1			※講義	
	基礎看護学実習Ⅰ	1通	1					○	2				1					
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					○	8	3	5		2	3				
	専門看護学	成人看護学概論	1後	2			○			1	1							オムニバス
		成人看護学援助論A(急性期)	2前	2			○			1	1	2						兼3
		成人看護学援助論B(慢性期・終末期)	2後	2			○			1	1	3						オムニバス
		成人看護学援助論C(リハビリテーション期・回復期)	3前	1			○					2						兼1
		成人看護学実習A(急性期)	3後	4					○	1	1	3						オムニバス
		成人看護学実習B(慢性期)	3後	4					○	1	1	3						オムニバス
		老年看護学概論	1後	2			○			1								
		老年看護学援助論	2前	2					○	1								※講義
		老年看護学実習	3後・4前	2					○	2								
		生活支援看護学実習(コミュニティ)	3後・4前	2					○	2	1				1			
		在宅看護論	2前	2					○		1							
		在宅看護援助論	2後	2					○		1							※講義
		在宅看護実習	3後・4前	2					○		1				1			
精神看護学概論		2前	2					○	1									
精神看護学援助論		2後	2					○	1								※講義	
精神看護学実習	3後・4前	2					○	1					1					
母性看護学概論	2前	2					○	1										
母性看護学援助論	2後	2					○					2				※講義		
母性看護学実習	3後・4前	2					○				2							
小児看護学概論	2前	2					○	1										
小児看護学援助論	2後	2					○	1								※講義		
小児看護学実習	3後・4前	2					○	1					1					
分野看護学	看護管理	3前	2			○			1								兼1	
	医療安全	3前	1			○			1								兼3	
	救命救急医療特論	2後	2			○			1								兼2	
	健康危機管理特論	3前		1		○			1								兼2	
	地域医療特論	3前		1		○			1								兼3	
	看護生涯教育特論	3前		1		○			2								オムニバス	
	臨床コミュニケーション特論	3前		1		○			1								兼1	
	継続看護論	3前		1		○			1	1							オムニバス	
	臨床援助技術演習	4後		1			○		1									
	インターンシップ実習	4後		1					1									
	卒業研究Ⅰ(基礎編)	3前	1				○		12	3	6							
	卒業研究Ⅱ(実践編)	3後・4通	3				○		12	3	6							
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後	◎2	2		○			1								兼1	
	公衆衛生看護管理論	4前	◎1	1		○				1								
	地域ケアシステム論	3前	◎1	1		○												
	公衆衛生看護活動展開論	3前	◎1	1		○			1									
	健康教育論	3前	◎1	1		○			2								オムニバス	
	地域保健指導論	3後	◎2	2		○			1	1							兼3	
	地域保健指導特論	4前	◎1	1		○				1							兼2	
	産業保健	3前	◎1	1		○			1								兼1	
	学校保健	3前	◎1	1		○											兼1	
	公衆衛生看護学実習	4通	◎4	4				○	2	1				1				
家庭訪問実習	4通	◎1	1				○	2	1				1					
小計(52科目)	—	69	23	0	—	—	—	12	3	6	2	3	兼24	—				
保健師教育課程	—	85	7	0	—	—	—											
合計(108科目)	—	112	54	0	—	—	—	14	3	6	2	3	兼74	—				
保健師教育課程	—	129	37	0	—	—	—											
学位又は称号	学士(看護学)	学位又は学科の分野		看護学関係														
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
必修科目112単位、基礎分野の選択科目から8単位、専門基礎分野の選択必修科目から1単位及び選択科目から1単位、専門分野の選択科目から3単位以上を修得し、125単位以上修得すること。 《保健師教育課程》 必修科目112単位、基礎分野の選択科目から8単位、専門基礎分野の選択必修科目から1単位及び◎保健師教育課程の必修科目から1単位、専門分野の選択科目から1単位、◎保健師教育課程の必修科目から16単位以上を修得し、139単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2学期						
								1学期の授業期間				15週						
								1時限の授業時間				90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科 看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護研究特論	<p>○授業目的 看護における研究の意義と役割を理解し、より高度な看護研究の原理と方法について理解を深める。研究者としての新しい知見を得るための方法論を学び、社会に還元できる実践的な研究能力を高める。</p> <p>○授業概要 研究における理論・概念枠組み、研究デザイン、方法について理解を深め、量的・質的研究の原則、特徴を学び、研究計画書、研究倫理審査、研究論文作成までの研究プロセスを理解する。 多様な研究デザインの先行研究を材料に、課題演習、特別研究を進めるための基盤を作り、学生の個別なテーマを深める機会とし、今後の研究活動が効果的に実施できることを目標とする。 (杉本教授が科目責任者)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 古城幸子/5回) 授業の進め方と看護研究の動向、研究計画書から論文作成までの研究プロセスの概観、各自の過去の発表論文・関心のある学会誌の先行研究のクリティーク、看護研究の意義と役割</p> <p>(4 杉本幸枝/10回) 量的・質的研究のデザイン、実験研究・調査研究・面接法や参加観察法・事例研究・文献研究の基本、標本抽出方法、量的・質的データの解析方法、研究計画書の作成と倫理委員会への申請方法、プレゼンテーションの方法と学会発表、看護系論文の書き方、量的・質的デザインの論文講読</p>	オムニバス方式
	看護学の動向と展望	<p>○授業目的 全国学会や専門領域に特化した学会など、幅広く看護学の発展と看護の知的財産の蓄積のために開催されている学会の現状を知り、看護学研究の様々な分野における研究の動向を知る。</p> <p>○授業概要 学生個々のテーマに関連した、または関心のある領域の学会を把握、その領域における現在の課題や展望を理解する。関連する学会への参加を通して、基調講演や教育講演、発表演題内容から、現在焦点化された課題は何か、今関心を持って取り組まれている研究は何かなどを学ぶ。参加後に、学生間での情報交換と共有、看護学全体の方向性や展望について討議し、各自の研究への課題を明確にする機会とする。</p>	演習20時間 講義10時間
	統計学特論	<p>○授業目的 統計的モデル選択や尺度開発など、主として調査研究を実施する際に必要とされる統計学の知識や技術を学習する。また、汎用の統計ソフトを活用し、データの記述・要約を目的とした単変量解析から予測・分類を目的とした多変量解析までの一連の統計手法を修得する。</p> <p>○授業概要 地域住民や児童、学生、高齢者、患者など、多種多様な集団を対象とした質問紙調査とデータ解析事例に基づき、健康問題の解決に役立つ理論・モデルの開発と検証のための一連の統計学的手法について教授する。また、健康の心理社会的要因およびアウトカムに関する尺度開発研究の成果を踏まえ、因子分析的手法等の概念の測定に不可欠な尺度の開発及び検証に必要な統計学的手法についても教授する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	人間関係特論	<p>○授業目的 人間関係、対人援助に関係する諸理論を学び、看護実践の再検討をとおして、自己理解を深め、人間関係における自己の課題を探究する。</p> <p>○授業概要 交流分析やカウセリング技法を用いて、人間関係、対人援助に関係する諸理論を学ぶ。交流分析では、自我状態の理解を基礎として、ストロークの重要性、対人交流パターンと心理ゲーム、人生脚本等について学ぶ。体験的な実践場面の再検討をとおして、自己理解を深め、インフォーマル・フォーマルな人間関係のあり方を考える。組織におけるサポートシステムと自己の課題を明確にする。コミュニケーション、対人援助の課題を通して看護ケアの本質を探究する。 (水野講師が科目責任者)</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (17 水野正憲／7回) 交流分析による人間関係の理解、人間関係の基礎的構えと自我状態、対人援助のストローク・対人交流パターン、心理的ゲーム・ディスカウントと不自然な感情ラケット・脚本とミニ脚本による自己理解と他者理解</p> <p>(16 太湯好子／8回) 対人交流の技法として対人援助と人間観、対人援助の基本とケアの本質、看護と対人関係論的アプローチ、看護に生かすカウンセリング、先行文献や看護場面事例を使って看護実践場面の再検討</p>	オムニバス方式 講義 2 時間 演習 8 時間
	看護実践と倫理	<p>○授業目的 看護実践上の倫理的概念であるアドボカシー、ケアリング、責任、協働を基盤にした、倫理的ジレンマおよび倫理的問題について多様な視点から考察する。価値観の対立する臨床場面を取り上げ、多様な価値観への理解と自己洞察を深め、意識的に倫理的感性を高めるための課題を探究する。</p> <p>○授業概要 看護専門職が実践する援助技術には、知識・技術・倫理的態度が必要である。①排泄の援助など看護技術に関する研究、②看護実践する上で必要となる看護アドボカシー、③チーム医療を行なう上での看護の専門性「療養上の世話中心の看護業務をめぐる私論」に関する研究、④個人情報保護、⑤看護研究を行う倫理、⑥経管栄養をめぐる訪問看護師の倫理的ジレンマなどの調査研究を基に、対象の尊厳を護る専門職としての看護倫理を教授する。</p>	
	看護教育特論	<p>○授業目的 看護実践・看護教育において必要な指導方法や教育評価のあり方を学習する。また、看護教育指導者として教育方法の理解を深める。さらに看護教育指導者としての資質を高めるための課題を探究する。</p> <p>○授業概要 看護教育制度・看護教育課程・諸外国の看護教育の動向を理解し、看護教育に共通して求められる基礎的理論を理解する。さらに、看護教育指導者に必要な教育方法として、問題解決学習、モデリング、カンファレンス、教育目標と評価との関係について教授する。また、看護専門職としてのアイデンティティの確立に向けてキャリア開発やキャリア支援のあり方を考える。看護基礎教育の構造や教育方法について討議し、模擬講義を体験することで、看護学生への指導教育方法の理解を深める。 (上山教授が科目責任者)</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (18 深田美香／4回) 看護教育の基礎的理論、看護教育制度の変遷</p> <p>(3 上山和子／6回) 看護専門職としてのアイデンティティの確立に向けての教育方法、講義・演習・実習などの授業方法の形態、授業で用いられる問題解決学習、モデリング、カンファレンス、形成的評価・到達度評価などの教育方法と評価</p> <p>(2 古城幸子／5回) 看護教育機関の種別による教育目的・教育環境の違いと指定規則・中教審答申の理解、看護基礎教育における教育目的・目標の設定とカリキュラム構築、授業計画立案、模擬授業、学生の授業評価と自己評価、教育評価とまとめ</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護管理特論	<p>○授業目的 現代社会の保健医療の現状の中で、看護管理の果たす役割を理解し、看護管理に必要な組織論・経営論の知識を深める。</p> <p>○授業概要 社会のニーズに対応した質の高い看護の提供のためには、看護専門職としての実践能力の育成と一人ひとりの能力を活かすマネジメントが求められる。そこで看護専門職に求められるマネジメントに関する高度な知識や理論を学習するとともに、看護マネジメントについて必要な能力として、倫理的感性と能力の育成、医療制度、組織理論、情報管理について、参加者間の討議をとおして、看護サービスの現状と課題を明らかにする。またそれらの課題について考察し、問題解決方法を探る。</p>	
	地域医療支援特論	<p>○授業目的 山間過疎地域に在住する住民の健康レベルの向上に必要な課題を学び、健康の維持増進、住民の主体的な活動への支援などの確な対応ができる高度な専門的知識と技術、保健医療福祉の連携とシステムを探究する。</p> <p>○授業概要 岡山県北を中心とした地域の医療の状況を理解し、地域の保健医療福祉活動の現状と課題について学ぶ。地域包括医療と地域看護の連携と役割、へき地看護の機能と役割について考え、地域医療システム構築に向けた支援のあり方を検討する。地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と地域看護管理体制など、地域医療・看護を支援する方法を探究する。 (金山教授が科目責任者)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 金山時恵/5回) 地域医療支援の概念、山間過疎地域における地域看護の現状、地域看護システムの課題、地域医療支援に関する文献検討</p> <p>(11 栗本一美/5回) 地域医療とへき地看護、ルーラルナースィング、地域医療とへき地看護職の機能と役割、地域医療支援と看護に関する文献検討</p> <p>(20 佐藤勝/5回) 地域医療の定義、診療所における地域医療の意義、地域包括医療の意義および医療・福祉の現状と課題、地域包括医療におけるへき地看護との連携と期待</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
専門科目	健康支援活動特論	<p>○授業目的 生活者である対象の健康の保持・増進に関わる知識・技術を高める。地域で生活する人々、個人及び家族、さらにコミュニティ（特定集団・地域）のケアに関する概念や理論を理解する。現代社会における健康上の潜在的・顕在的課題を理解する。それらに基づいた効果的な支援のあり方を探究する。</p> <p>○授業概要 生活習慣病の予防などの健康支援対策について、その対象、方法、効果の先行文献及び事例を通して考察し、地域における生活者の健康を守るための支援のあり方を教授する。また、生活者の身体状況や健康レベルに合わせた健康と生活の関連性から捉えた適切な支援方法や生涯にわたるセルフケア能力向上のための健康支援について探究する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域生活支援看護学領域 専門科目	高齢者ケア特論	<p>○授業目的 高齢者への視点を、家族形態の歴史的な変遷と共に、社会的な規範に縛られた我が国の家族の現状を土台として、高齢者が抱える課題と専門職の支援について探究する。</p> <p>○授業概要 肯定的な高齢者観と多面的な理解、高齢者の尊厳を守る専門職役割を教授する。高齢者の生き方や死への向かい方など、高齢者を取り巻く社会的な変化や、高齢者虐待や孤立死、介護家族の疲弊、高齢者ケアに携わる看護職や周辺の専門職の課題を明確にし、要援護高齢者とその家族への支援について考える。また、認知症高齢者の尊厳に配慮したコミュニケーションなど、看護実践の振り返りを基礎に、高齢者の人権と権利擁護について考える。 (古城教授が科目責任者)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 古城幸子/5回) 高齢者と家族の理解、高齢者を含む家族役割の変遷と現代家族の課題、高齢者とQOL、尊厳死と看取りに焦点を当てて高齢者と死への理解、高齢者ケアに関する看護研究の動向</p> <p>(9 木下香織/10回) 生活機能・精神機能・社会及び環境に対する高齢者の健康と生活のアセスメント、高齢者ケアとエンパワメント、高齢者の社会的孤立とサポート、要援護高齢者と介護家族へのサポート、高齢者の人権と権利擁護、高齢者と家族への支援と課題</p>	オムニバス方式
	高齢者コミュニケーション特論	<p>○授業目的 高齢者が加齢変化や老年期特有の疾病によって抱えるコミュニケーションの課題を理解し、高齢者のQOL向上につながる根拠に基づいた援助方法を探究する。</p> <p>○授業概要 老化による諸機能の低下や老年期特有の疾病によって生じるコミュニケーションの障害が高齢者に与える影響を身体的、心理的、社会的側面から考える。視覚・聴覚機能の低下、認知機能の低下、唾液分泌量の減少や歯牙の欠損など、加齢に伴うさまざまなコミュニケーション上の障害の原因についてのアセスメントと援助方法、バリテーションなど認知症の高齢者とのコミュニケーションの方法を考察する。また、施設や病院で生活する高齢者、独居高齢者など、環境的な要因でコミュニケーションに支障をきたしやすい高齢者について、心理的孤立感や社会的孤立の側面から考察する。さらには、高齢者のコミュニケーション障害に関する研究的な取り組みから、高齢者のQOLの向上をめざした、根拠にもとづいた援助方法を探究する。</p>	
	在宅看護支援特論	<p>○授業目的 在宅看護の対象者(療養者とその家族)の現状と課題を把握し、対象のQOLの向上に向けた看護実践のあり方と具体的な方法論を学ぶ。また、訪問看護師などの在宅看護サービス提供者に関わる現状の課題について分析し、在宅ケア理論に基づいた援助方法や支援のあり方を探究する。</p> <p>○授業概要 現行制度における在宅医療・在宅看護の実態を理解し、山間過疎地域で生活している療養者とその家族への支援のあり方と課題を考える。高齢化率の高い山間過疎地域における在宅看護の役割は大きく、訪問活動や健康・生活相談などの訪問活動の実績を通して、地域で在宅療養する療養者と家族への関わりや看護職の役割を教授する。また、訪問看護師の卒後教育、新人訪問看護師の定着など訪問看護師育成や訪問看護の質の確保などについて探究する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域生活 支援看護学 領域	地域ケアマネジメント特論	<p>○授業目的 山間過疎地域在住の要援護者へのケアマネジメントのあり方を理論的・実践的に理解する。個別的なケアマネジメントを発展させ、地域全体を捉え、長期的な展望をもって地域のケアマネジメントを展開できる能力の育成を目指し、具体的な方法論について探究する。</p> <p>○授業概要 ケアマネジメントに関する概念・諸理論・展開論を教授する。専門的援助関係の形成と相談援助の枠組みについて理解し、地域高齢者の介護予防から要援護高齢者・障がい者・難病を抱える対象のケアマネジメントのあり方を探究する。地域ケアマネジメントで重要な、多職種協働によるチームアプローチのあり方を課題として、地域ケアマネジメントへの具体的な展開について検討する。</p>	
	療養支援看護学特論	<p>○授業目的 健康障害をもちながらも、QOLの高い療養生活を営めるような看護実践のあり方について探究する。</p> <p>○授業概要 地域での質の高い療養生活を可能にするための療養支援について電子カルテ教育システムを活用し、自己の看護体験を内省した看護過程を展開する。その際、臨床から在宅あるいは在宅から臨床へと継続した地域医療を支え、療養者中心の援助技術内容や教育的・倫理的態度について検討する。また、対象者の健康や療養生活の包括的支援について探究する。さらに、在宅での療養生活を可能にする遠隔医療支援システムについて学ぶ。 (土井教授が科目責任者)</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 土井英子／6回) 健康障害と看護実践、電子カルテ教育システムと看護過程、対象の健康問題・看護問題のアセスメント、対象の健康問題に関する看護実践、地域医療を支える看護援助</p> <p>(10 矢庭さゆり／3回) 臨床と在宅における地域医療連携のあり方、地域連携クリティカルパス運用の実際と課題、中山間地域における医療と介護の連携の課題</p> <p>(4 杉本幸枝／6回) 遠隔医療に関する概念の探究、遠隔医療のなかの看護の役割、遠隔医療支援システムの構築、遠隔医療支援システムでの他職種との連携、遠隔医療支援システムの実際、遠隔医療支援システムの今後の展望と課題</p>	オムニバス方式
専門科目 療養支援看護学 領域	看護技術特論	<p>○授業目的 臨床から地域における援助技術の概念・諸理論について理解し、根拠に基づいた援助内容や支援方法のあり方のEBNについて探究する。</p> <p>○授業概要 病院・施設、在宅での療養支援として必要な看護技術は、呼吸管理、褥瘡予防や栄養管理、清潔保持、口腔ケアなどである。それらの技術に対するEBNの検証を含めた新しい知見を探究する。褥瘡や嚥法、浣腸などの看護技術のエビデンス、また援助技術全般にわたる看護援助技術教育について教授する。臨床から在宅への具体的な実践事例を基に、アセスメント力、応用実践力を身につけ、エビデンスを持った看護実践者を育成する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
療養支援看護学領域 専門科目	成人看護支援特論	<p>○授業目的 成人期の発達課題と危機を理解し、健康上の課題を抱える社会的な存在としての成人を支援する能力を高める。健康障害直後から回復、終末期など、種々の理論を用いて、表出される様々な反応や現象を理論的に説明でき、解決のための方略を開発する能力を身につける。</p> <p>○授業概要 山間過疎地域で生活する人々の健康と医療に関するニーズを理解し、生活習慣病予防、在宅医療福祉への取り組みに関する先行研究の検索・クリティークを通して、ヘルスプロモーション、慢性疾患による生活機能の障害の理解、社会的存在としての生活者への支援を探究する。また、療養の場を在宅に移行するがん患者とその家族、ケアを提供する医療者等の先行研究を基に、がん患者とその家族が自らの力を発揮し、在宅での療養生活を継続できるような支援要請や在宅療養移行支援を探究する。 (古城教授が科目責任者)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 古城幸子/8回) 成人期における療養支援の理解、成人期の発達課題と危機、成人期の健康上の課題、ヘルスプロモーションの概念とモデル・行動変容への支援、セルフコントロールを要する事例・老化に伴う生活障害の事例を基に生活機能障害の理解と支援、在宅療養と地域連携の課題</p> <p>(12 磯本暁子/7回) がん看護領域における重要概念の探求、がん看護領域におけるエビデンスの検討、がん患者とその家族の療養体験の理解、がん患者とその家族にケアを提供する医療者の役割、在宅療養移行支援の探求、緩和ケアと終末期ケアにおける看護支援、がん看護における課題と展望</p>	オムニバス方式
	育成看護支援特論	<p>○授業目的 子どもの育成に必要な概念・諸理論を理解し、保健・医療・福祉・教育の視点から課題を捉え、多様な支援方法を探究する知識と技術を修得する。さらに地域医療における子どもの育成の看護専門職としてのあり方を探究する。</p> <p>○授業概要 子どもの育成に必要な概念・理論を概観する。保健・医療・福祉と院内学級を含む特別支援学校などの教育からみた子どもの育成に関する社会的課題を分析し、看護職の役割を教授する。地域医療における小児医療の現状、臨床(入院・外来)から在宅に向けた家庭療養、継続看護への支援について検討し、小児のケアと家族への支援方法について多面的に探究する。 また、現代社会が抱える次世代の育成に関する問題に焦点を当て、包括的な育児支援について探究する。</p>	
	精神看護ケア特論	<p>○授業目的 精神看護学の基盤となる理論や概念を理解した上で、現代社会における指針や看護に関する課題を明らかにする。また、精神の健康や生活を包括的に査定するための方法論を学び、個人および集団に対する効果的な看護ケア方法を開発・発展させる。</p> <p>○授業概要 精神疾患患者が体験している病や生活の困難感、患者が必要としている退院支援、患者の服薬行動、個人と治療環境、地域生活支援に焦点を当てた介入方法について、諸理論を用いて多面的に教授する。また、精神科看護師の倫理的判断、精神科で用いられるケア介入としての看護技術、対象者の精神の健康や生活の包括的支援について考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習・研究	地域生活支援看護学課題演習	<p>○授業目的 地域生活支援看護に関する課題に対する現在の支援の状況と解決すべき介入方法を検討する。 研究課題に対する先行研究に関して、そのテーマ・研究方法・研究結果等を批判的に分析し探究する。</p> <p>○授業概要 地域生活支援看護に関わる複数の教員と学生間、あるいは学生同士の双方向の議論を行う。 地域生活支援看護の課題に対する先行研究をブラウジングすることで、研究の動向を把握する。また、論文抄読では論文を批判的に分析し、その研究課題に対する支援の状況と解決すべき問題点を明確にする。 演習方法としては、領域担当教員による課題提示の討議と学生からの課題提示の討議を踏まえて、地域生活支援看護学の課題と展望を明確にする。</p>	
	療養支援看護学課題演習	<p>○授業目的 療養支援看護に関する課題に対して、現在の支援状況と解決すべき介入方法を検討する。 療養支援看護の課題に対する先行研究に関して、テーマ・研究方法・研究結果等を批判的に分析し探究する。</p> <p>○授業概要 療養支援看護に関わる複数の教員と学生間、あるいは学生同士の双方向の議論を行う。 療養支援看護学は、医療ニーズの高い健康障害を持つ人の療養生活の支援のあり方を探究する。療養支援に関する先行研究を幅広くブラウジングすることで、視野を広げ研究の動向を把握する。また、論文抄読では論文を批判的に分析し、その研究課題に対する支援の状況と解決すべき問題点を明確にする。 演習方法としては、領域担当教員による課題提示の討議と学生からの課題提示の討議を踏まえて、療養支援看護学の課題と展望を明確にする。</p>	
	特別研究 I	<p>○授業目的 看護に関する特定の課題に関し、関連する国内外の文献を概観し、理論－実践－研究の関連性を分析し、実践看護の向上に寄与する知見を修得し、研究計画書の作成を行う。</p> <p>○授業概要 関心のある研究テーマにそって、指導担当教員による助言指導を得ながら学習を進める。まず、研究目的を明確にし、研究デザイン、研究方法を具体的に計画する。関連ある先行研究を探索し、読み込む中で、より具体的な研究上の課題や方法論の適正、対象者の選定方法などを詳細に検討する。研究倫理に関する確認、得られる結果の予測と仮説の設定、関連機関との調整や依頼など、実行可能な研究計画書を作成する。</p> <p>(1 難波正義) 生活習慣病とがん発生の関係、がん患者の看護のあり方、緩和ケアの問題点などについて研究を行う。新しい分子標的抗がん剤を受けた患者の治療効果、経済的問題、副作用などについて、研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(2 古城幸子) 高齢者の主観的幸福観や生きがい等、安心で豊かな生活を送るための支援の課題を明らかにする。ケア提供者の倫理的姿勢や在宅高齢者支援の介入方法について探究し、高齢者理解を深め、質の高い支援につながる研究課題に対する研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(3 上山和子) 小児の急性期の症状別看護を主体とした外来看護から家庭療養に向けた支援方法、小児の観察とアセスメントの方法、生涯発達と子育て支援などをテーマに、量的、質的研究手法で研究計画書の作成に向けた指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習・研究	特別研究 I	<p>(4 杉本幸枝) 看護技術における、看護実践の現状を変革し、質の高い実践を導くための研究活動を指導する。エビデンスに基づく実践をする上での課題を明確にする。特に、褥瘡や排泄・移乗動作などの日常生活援助に関する文献検索、研究テーマの明確化を行い、その成果を研究計画書としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(5 金山時恵) 地域住民の健康に関する意識や行動に関するテーマを取り上げ、健康課題を明らかにしその解決及びセルフケア能力向上に向けた支援、健康の保持・増進に関する方法を検討するために必要な研究計画の立案に向けた指導を行う。</p> <p>(6 佐々木順造) 骨がどのように形成されるのか、また、どのように吸収されていくのかについて研究を行う。加齢とともに変化する骨塩量の状況、在宅・施設ケアの現場における課題、特に骨粗しょう症患者の薬物治療について、顎骨壊死など副作用の予防やQOL向上の観点も含めて検討し、研究計画書の作成を指導する。</p> <p>(7 土井英子) 健康障害をもった対象やその家族への療養支援のあり方、看護アドボカシーや個人情報保護など看護実践を行う上で重要となる倫理的な態度や行動とはどのようなことか、どのような倫理的ジレンマがあるか等、質の高い療養支援につながる研究課題に対する研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(8 澤田由美) 精神疾患患者の病や生活、治療の受け止めに焦点を当てた上で、ケアや生活支援に関する論文を検討し、精神看護の専門性を明らかにするための研究課題を明確にする。質的研究手法を用いた研究計画書作成のための指導を行う。</p> <p>(9 木下香織) 転倒予防など在宅高齢者の介護予防に関するテーマ、高齢者の言動の理解や対人交流に関するテーマについての先行研究を検討し、研究課題の明確化と研究計画の立案に向けた指導を行なう。</p> <p>(10 矢庭さゆり) 地域で生活する支援が必要な要援護者と家族のQOLの向上に関する先行文献をクリティークし、よりよい支援のあり方について探求し、各自の研究課題の明確化と研究計画の立案に向けて指導する。</p> <p>(11 栗本一美) 在宅看護の対象者(小児から高齢者)の在宅療養者とその家族のQOLの向上に向けた看護実践のあり方や、在宅看護サービス提供者に関わる課題など特定の課題を見出し、相互の自由討議等を通して研究テーマを決定し、研究実施上の倫理的配慮を含めた研究計画書を作成する。</p> <p>(12 磯本暁子) がん患者とその家族への看護支援に関する臨床上の疑問について先行研究を吟味し、がん患者とその家族の体験と看護支援への理解を深めながら、自己の研究課題を焦点化し、研究計画書の作成にむけて助言・指導する。</p> <p>(13 掛屋純子) がん患者および家族のQOLやがんサバイバーシップを高めるための看護実践やがん患者および家族の抱える問題についての先行研究を検討し、研究テーマの明確化を行い研究計画書の作成をする。</p> <p>(14 谷野宏美) 女性への暴力や児童虐待に関する先行研究の収集と検討を行い、女性のライフサイクルにおける危機とその対策について、我が国や諸外国での現状を知る。また、今後の課題を見出し、研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(15 矢嶋裕樹) 慢性疾患を抱える患者やその家族の健康アウトカムに関する先行文献をクリティークし、研究課題を明確化するとともに、良質な仮説を構築し、それに基づいてエビデンスレベルの高いデータを収集できるように研究計画書の作成に向けた助言・指導をする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習・研究	特別研究Ⅱ	<p>○授業目的 個々の研究計画書に基づいた研究の実践をととして研究のプロセスを習得する。研究実践から得た知見を看護学の発展に寄与する研究論文として作成する。</p> <p>○授業概要 研究プロセスに沿って研究を実践する。得られたデータを整理分析するための方法論を習得する。先行研究からの知見と研究結果をもとに、考察を深め、独自性のある研究論文へとまとめる。 中間発表会を経て、主査・副査の助言指導を受け、修士論文へとまとめる。</p> <p>(1 難波正義) 生活習慣病とがん発生の関係、がん患者の看護のあり方、緩和ケアの問題点などについて研究を行う。新しい分子標的抗がん剤を受けた患者の治療効果、経済的問題、副作用などについて、研究論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(2 古城幸子) 各自の研究計画書を基に、量的・質的研究手法を用いて研究を進め、在宅高齢者、施設利用高齢者のQOLを支える看護学の新しい知見を導き出せるように助言指導し、その成果を研究論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(3 上山和子) 小児看護における外来看護や家庭療養支援の構築を検討し、育成期の看護として質の高い看護実践を導くための研究活動を助言指導する。研究計画書に基づきデータ収集・分析を行い、その成果を修士論文としてまとめるための量的・質的研究指導を行う。</p> <p>(4 杉本幸枝) 看護技術における、看護実践の現状を革新し、質の高い実践を導くための研究活動を指導する。エビデンスに基づく実践をする上での課題を明確にする。特に、褥瘡や排泄・移乗動作などの日常生活援助に関する研究を中心に行い、その成果を修士論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(5 金山時恵) 健康の保持・増進に関する地域住民の意識や行動について、内容分析法を用いて健康課題の解決及びセルフケア能力向上に向けた支援に関する研究指導を行い、その成果を修士論文としてまとめるための指導助言を行う。</p> <p>(6 佐々木順造) 骨がどのように形成されるのか、また、どのように吸収されていくのかについて研究を行う。加齢とともに変化する骨塩量の状況、在宅・施設ケアの現場における課題、特に骨粗しょう症患者の薬物治療の実態について、顎骨壊死など副作用の予防やQOL向上の観点も含めて研究を推進し、研究指導・修士論文作成指導を行う。</p> <p>(7 土井英子) 健康障害をもった対象やその家族への療養支援のあり方、看護アドボカシーや個人情報保護など看護実践を行う上で重要となる倫理的な態度や行動とはどのようなことか、どのような倫理的ジレンマがあるか等、質的・量的な研究手法を用いて修士論文にまとめるための研究指導を行う。</p> <p>(8 澤田由美) 精神疾患患者の病や生活、治療の受け止め、ケアや生活支援における看護の機能に関するテーマを取り上げ、質的帰納的な手法を用いて、精神看護の質の向上を目的とした研究の実践により、修士論文にまとめる指導を行う。</p> <p>(9 木下香織) 転倒予防など在宅高齢者の介護予防に関するテーマ、高齢者の言動の理解や対人交流に関するテーマを取り上げ、質的・量的な手法を用いて、高齢者ケアの質の向上をめざした研究の実践により、修士論文にまとめる指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習・研究	特別研究Ⅱ	<p>(10 矢庭さゆり) 研究計画書を基に、ケアマネジメントの理論と手法ならびに質的・量的研究手法を用いて研究を進め、地域で生活する要援護者と家族のQOL向上への質の高い支援のあり方を導き出せるよう助言指導し、その成果を研究論文としてまとめるための研究指導を行う。</p> <p>(11 栗本一美) 在宅看護の対象者(療養者とその家族)のQOLの向上に向けた看護実践のあり方や、在宅看護サービス提供者に関わる課題について、内容分析法の手法を用いて研究指導を行い、その成果を修士論文としてまとめるために指導助言を行う。</p> <p>(12 磯本暁子) がん患者とその家族への看護支援に関する質の高い実践を導くための研究を行う。研究計画書に基づいてデータ収集を行い、分析・考察、論文作成などについて学びながら研究を遂行し、論文をまとめるための助言・指導を行う。</p> <p>(13 掛屋純子) がん患者や患者を取り巻く環境を対象に、患者・家族のQOLやがんサバイバーシップを高めるための看護実践についての課題を探求し、質的および量的手法を用いて助言・指導をし、その成果を研究論文としてまとめるための助言をする。</p> <p>(14 谷野宏美) 助産師の観点から、女性への暴力や児童虐待に関する予防や発見および対応を課題とし、看護専門職者が行う女性と子どもの暴力に関する研究について、その成果を論文としてまとめ、公表するための助言・指導を行う。</p> <p>(15 矢嶋裕樹) 要因-健康アウトカム間の関連性について妥当な結論を導くうえで不可欠な誤差やバイアス、交絡の回避・制御方法および適切なデータ解析手法の適用と結果の解釈について助言・指導する。また、得られた研究成果の一般化と公表の方法について助言し、その成果を研究論文としてまとめるための助言・指導を行う。</p>	